

# 時代を読み解く

シリーズ 40

発展途上国・新興国の集  
団を指すグローバル・サウ  
スは、冷戦期には脱植民地  
化を果した国家を中心に

## 今日の講師

やっづか まさあき  
**八塚 正晃氏**

防衛研究所  
政策シミュレーション室主任研究官



1985（昭和60）年生まれ。大阪府出身。慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学。2016年防衛研究所。北京大学国際関係学院留学、在香港日本国総領事館専門調査員（政務）、防衛省国際政策課部員、法政大学法学部兼任講師、豪州戦略政策研究所（ASPI）客員研究員などを経て、21年から現職。主な著書に『台頭するグローバル・サウスと中国 中国安全保障レポート2025』（防研、2024年）など。

「第三世界」と呼ばれ、21世紀初頭からBRICSに代表される新興経済国家群が台頭するなど、国際政治の中で度々議論の対象となってきた。

**代表権など向上へ  
指導的役割を自任**

そして、グローバル・サウス諸国の多くが、ウクライナ戦争に際して国連の場では対露批判決議に同調する一方で、西側諸国主導の対露経済制裁には参加せず、その独自の政治的な立場を示したことで、再び注目されるようになった。

さらに、中国も、自らをグローバル・サウスの一員と位置づけ、その代表権や発言権を向上させる指導的役割を自任するようになった。

防衛研究所は2024年12月、中東とアフリカを事

は、発展途上国だけでなく権威主義国家群に対しても多方面で影響力を増大してきた。こうした自国のパワーを背景に、中国はグローバル・サウスを糾合しつ

つ、既存の国際秩序に対する挑戦的な姿勢を強めている。米中心の価値観や同盟のネ

を中心に広がる同盟のネットワークを繰り返し批判し、それらの相対化・弱体化を図っている。

中国からすれば、第2次世界大戦後に欧米諸国のパワーの源泉となっている欧米に他ならない。

米中対立の先鋭化に伴って米中対立の先鋭化に伴って活発になってはいるが、当然ながら、グローバル・サウスの諸国も米国や欧州との関係に配慮し、中国の外交勢に容易に応じること

なるだろう。グローバル・サウスにおいてパワーバランスの変化や多極化が見込まれる中で、中国のリーダーシップは、インドのような新興大国から挑戦を受けることにならざるを得ない。

## グローバル・サウスの糾合

### 図る中国の意図と課題

例に中国とグローバル・サウスの関係を多角的に分析する『台頭するグローバル・サウスと中国（中国安全保障レポート2025）』を発表した。

**「普遍的な価値観」  
弱体化を目指す中国**

中国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

国は、国連を中心とする国際システムを肯定的に評価する一方で、自由・民主主義など欧米諸国中心の「普遍的な価値観」と米

**利益、関係配慮等  
一筋縄でない集約**

だが、グローバル・サウスの糾合は一筋縄ではない。第一に、グローバル・サウスは経済水準・政治体制・宗教など多様な国家を含むために、経済発展や気候変動などグローバルなイシューを除いて、その集約的役割を集約することは極めて難しい。

第三に、中国は既に経済停滞や人口減少期に突入して「ピークを迎えた」と見られる一方で、多くのグローバル・サウスの国々はこれから経済成長を遂げる潜在性を有する。

放棄する米国、ピークを迎えた中国が交錯する時代に於いて、日本が果たすべき国際的役割もまた大きく変化していくかもしれない。

#### テーマをさらに深掘り 「防研セミナーブリーフィング」

執筆者の八塚主任研究官が今回のテーマをさらに深掘りして解説し、防衛省職員と突っ込んだ議論を行う「防研セミナーブリーフィング」が5月23日（金）午後3時～4時まで、市ヶ谷のF1棟6階「国際会議場」で開かれます。参加者・聴講者は隊員に限定します。ご興味ある方は奮ってご参加ください。▽問い合わせ＝防研企画調整課03-3268-3111（内線29177）まで。